社会歯科学の研究とは

A　どのようなテーマで研究するのですか？

社会歯科学の研究は、基礎研究でも、臨床研究でも、そして疫学研究でもなく、ちょっと変わっています。以下に社会歯科学の研究２つを紹介します。

概要：ある歯科大学の卒業者を対象としたアンケート調査で得た約1,200人分の回答を用い、『診療環境要因』『将来性のある歯科領域』『歯科診療に必要な医学教科』と『歯科医師供給過剰感』との関連を多重ロジスティック回帰分析で解析した。多くの歯科医師に過剰感が蔓延しているにもかかわらず、歯科医師の『医学知識を増やしたいという意欲』と『歯科医師供給過剰感』の間に負の相関関係がみられた。これは、歯学部学生への口腔医学教育が、将来の職業満足感の基礎をつくる可能性を示すものである。

出 典 : Association between perception of dentist oversupply and expectations of dentistry: a survey of dental graduates in Japan. International Dental Journal. 2013;63:137-144.

概要：先行研究を基に「高齢者の一人平均現在歯数の多い市町村で一人あたり歯科医療費が高い。その理由は高齢者の歯科受診率が高いためである」という仮説を立てた。静岡県内62市町村のデータを基に、市町村別高齢者一人あたり歯科医療費を目的変数として重回帰分析を行い、前記の仮説を検証することができた。

出典：高齢者の現在歯数と歯科医療費の関連－市町村別データによる検討－. 口腔衛生会誌. 2005;55:32-40.

・・・・およそ歯科疾患の予防や治療の向上に直接、貢献するような研究ではありません。言うなれば、わが国の保健・医療・福祉のシステムの評価や改善に役立つものであり、保健・医療・福祉における歯科医師の立ち位置を明示するものと言えるでしょう。

B　どのようにしてデータを集めるのですか？

実験をしてデータを入手したり、診療に付随して生じるデータを収集したりするのではなく、主にアンケート調査でデータを集めます。アンケート調査と言うと簡単そうに聞こえますが、面識のない方々に調査に気持ち良く応じてもらうため、また、ありのままを回答していただくために、調査の段取りや設問の工夫など気配りしなければならないことがたくさんあります。この他に、新たに調査することなく、すでに収集されたデータを拝借して解析することもあります。この場合は、データの拝借に多大なエネルギーを要することが多いです。